

第3種郵便物認可

徳島病院難病リハビリセンター

海外から初の入院患者



フラジールから訪れ、ストレス解消を図るリハビリに取り組む本橋さん―吉野川市鴨島町の徳島病院

国立病院機構徳島病院(吉野川市鴨島町敷地)が運営する神経の難病「パーキンソン病」専門のリハビリセンターで、初めて海外から訪れた入院患者がリハビリを始めている。

入院患者は、28歳でフラジール・サンパウロ市に移住した本橋英子さん(73)川兵庫県新温泉町出身、無職。60歳で発症し、現地で治療を受けていたが、体が勝手に動いたり震えが止まらなかつたりする症状が進行。徳島病院のホームページで、同センターが病状進行要因のストレス解消を図る珍しいリハビリを実施していることを知り、新たな

HP閲覧 新たな治療挑戦

治療法に挑戦しようと訪れた。

4月下旬まで入院し、症状に合わせた独自メニューに取り組む。初日は医師や理学療法士の指導で、パーキンソン病による顔のこわばりを和らげるフェースマッサージや家庭用ゲーム機を使った運動を行った。

本橋さんは「こんなに楽しい治療は初めて。自宅でも続けられるようやり方を覚えて帰りたい」と話した。センター長の三ツ井貴夫医師は「はるばる海外から来てもらい光栄。典型的な症状なので、リハビリ効果が期待できそう」としている。

センターは2009年4月に開設し、これまでに県内外の患者250人が入院。重症度を示す数値が、平均で入院前の3分の2に改善するなど成果を上げている。

(秋月悠)